



琉球大学学術リポジトリ

University of the Ryukyus Repository

Title	そ菜畑での除草剤の利用
Author(s)	友寄, 長重
Citation	琉大農家便り(151): 6-7
Issue Date	1968-06
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/21251
Rights	

そ菜畑での除草剤の利用

1. 除草剤の種類

除草剤の利用は2.4-Dの発見によって急速に
進歩したが、大部分のそ菜は2.4-Dに敏感で低
濃度でも障害を受けるのでそ菜園での利用はほと
んど行なわれなかった。その後各種の除草剤の発
見が相つぎ、そ菜についても本土で多数の試験が
行なわれるようになった。その結果、現在利用さ
れているもの、あるいは利用される見込のあるも
のを次の表に示す。この表は各種そ菜に対し適用
される薬剤の種類および施用法を表示したもので
ある。

そ菜に対する除草剤の施用基準（栗山，西）

種 類	処 理 時 期	除 草 剤	散 布 量 g
ホウレンソウ	は種時全園土壌処理	Cℓ P C	200~300
"	"	CMU	40~60
アスパラガス	生育中全園土壌処理	CMU	50~70
スイカ	テント除去直前全園土壌処理	C A T	50~70
エンドウ	は種時全園土壌処理	Cℓ P C	200~300
"	"	C A T	40~50
インゲン	"	CMU	40~50
"	"	P C P	600~900
イチゴ	本畑生育中全園土壌処理	C A T	40~60
ニンジン	は種時全園土壌処理	プロパジン	50~70
"	2~4葉期	"	"
"	"	ソルベント	30~60ℓ
サトイモ	定植時全園土壌処理	CMU	50~70g
"	土寄せ直後全園土壌処理	CMU	50~70
"	"	P C P	600~900
タマネギ	本畑生育中全園土壌処理	Cℓ P C	200~300
ラッキョウ	"	"	
ニンニク	"	"	

10a当たりCAT, CMU, プロパジンは成分量, 他は製品量

2. 主な除草剤について

つぎにおもな除草剤について簡単な説明を加えよう。

Cℓ P C (クロロIPC)

白色無臭の針状結晶で、水に溶けないから通常

乳剤として使用する。土壤温度が高い場合には比較的すみやかに効力を失なうから、秋冬期から初春にかけて使用される。イネ科、ナデシコ科、タデ科などの雑草によくきき、比較的速効性で、土壤中での移行は少ない方である。タマネギについてはすでに実用化しており、ニンニクやラッキョウなどにも適用できる。秋まきタマネギの場合10a当たり300gを使用すると3月ごろまで雑草の発生をほぼおさえ、タマネギには害は認められない。晩春に発生する雑草をもおさえるには2月に300~600gをさらに1回を施用する。

P C P

植物体に接触して殺草するいわゆる接触型除草剤で、土壤に施用されても表層にとどまり、降雨による移行はほとんどない。土壤中で分解されるが、効力の持続期間は1ヶ月程度とみられる。10a当たり600~900gを必要とする。

CMU (商品名テルパー)

DCMU (商品名カーメックス) 両除草剤はいたようなもので、カーメックスは沖縄で製品化されている。水にとけにくく、増量剤を加えて粉末として使用される。植物に吸収されると体内を移行し、葉量が多いと枯死させる。降雨があっても土壤中の移行は少なく、また効力の持続期間も長い。10a当たり成分として50g前後を施用する。

C A T (商品名シマジン)

水に溶けないから水和剤として用いる。根から吸収されて殺草効果を示す。土壤中の移行はきわめて少なく、効力の持続期間も長い。10a当たり成分として50g以上で効果が著しい。沖縄で製品化されている。

上にあげたP C P, CMU, DCMU, C A T はいずれも非選択性の除草剤で土壤中の移行の少ないことを利用して、は種後、あるいは土寄せ後土壤表面に施用し、発生してくる雑草の幼植物を枯死させる除草効果を期待するものである。それ故、よく整地して大きな雑草はあらかじめ除去する必要がある。土壤の性質、降雨、覆土の深淺、あるいはそ菜の種類により、時として薬害を出す

おそれがあるので、これらの条件をよく吟味して施用することが必要である。

プロパジン（商品名ゲザミル）

CATに類いの薬剤で、水に溶けにくく水和剤として使用される。土壌処理により雑草の根から吸収されて効果をあらわす選択性の除草剤で、セリ科のそ菜にはほとんど無害なため、ニンジン、セルリーなどの除草剤として利用される。ニンジンについての試験成績では、は種後の処理では10aあたり100gで雑草の発生はほとんどおさえ、生育期間では100~150gを畑全体に散布すれば除草効果は高くニンジンには害を与えない。

石油

石油の中で芳香族炭化水素の含量の高いものは

殺草効果をもっている。ニンジン始めセリ科のそ菜は抵抗力が強いためアメリカでは広く使われている。ソルベントは芳香族の含量16%の石油で10aあたり6.3~7.2ℓを散布すれば十分効果があるとされる。散布が早すぎるとニンジンに害の出ることがあり、おそすぎると収護物に石油の臭がつくので、施用の適期は本葉2~4枚のころである。現在のところ価格の点に問題があるようである。

除草剤は年々新しい種類が発表されているが理想としては選択性が強く、ある種の作物には無害であるが、雑草は完全に殺す性質があるものである。今後はさらにこのような選択性の強い薬剤が現われることが期待される。（友寄 長重）